

令和5年度 学校評価 総括評価表

徳島県立徳島視覚支援学校

学校経営方針

1 徳島県教育の基本方針

未知の世界に果敢に挑戦する、世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる「人財」の育成を目指します。

「徳島ならではの」教育により、大きな夢や高い目標をもって、未知の世界に果敢に挑戦する、本県の宝である「人財」の育成を目指します。

2 徳島視覚支援学校の使命

徳島視覚支援学校は徳島聴覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校である。両校が連携・協働し、「幼児児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに、県内唯一の視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし、「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進します。

3 めざす学校像

- (1) 幼児児童生徒の人権を尊重し、一人一人を大切にする教育を学校におけるすべての教育活動をととして行う学校
- (2) 視覚障がいや多様な障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援ができる学校
- (3) 視覚障がいの専門性を校内外で発揮できる学校

4 本年度の重点目標

- (1) 幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。
 - ・ICT教育のステージを高め、家庭や関係機関との連携の場でさらに利活用します。
 - ・学校と家庭、寄宿舎の協働性を進めることで、学習内容の応用性を高めます。
- (2) 幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画や個別の指導計画を関係機関と共有することで、卒業後につながるキャリア教育を推進します。
- (3) 県内唯一の視覚障がい領域を対象とした特別支援学校として、学校全体で教育相談に対応するとともに、県内の視覚障がいのある幼児児童生徒や学校・教職員に対する持続可能なセンター的機能の取組を充実します。
- (4) 地域社会と連携した取組や、各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、視覚障がい教育への理解・啓発及びその取組発信に努めます。

重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	幼児が自分の身の回りのことを自分でしようとする意欲を高め、少ない支援でできる身の回りのことを増やしていける保育を実践します。				
幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動に意欲的に取り組み、自分でできる身の回りのことを増やす。 ・日常生活動作のうち、荷物の片付けや着替え、ハンカチの使用といった3つの活動が一人できる。 ・保育室内の環境や幼児が扱う物の置き場所、扱う物の見直し等を行う。 ・OTによるコンサルテーション年間1回以上受け、幼児の手指操作の発達段階を専門家に見てもらいと共に、手指操作の発達を促せるような活動を保育の中に取り入れる。 				
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				

重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	児童の障がいの特性に応じた教育活動につなげるために、児童の集団活動の場や家庭や関係機関との連携の場において、効果的なICT活用に取り組む。				
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ①集団活動の場において、児童の実態に応じてICT機器を活用した活動を行う。 ②授業や行事の様子を録画したものを活用し、懇談時等で個別の指導計画の目標達成状況等を保護者と共有する。 ③家庭での体調調整期間において、オンライン授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※各学級で、①～⑤の項目のうち3項目以上に取り組む。 ①ICT機器を活用した集団活動の機会を、年間9回以上設ける。 ②学期に1回以上実施する。 ③必要に応じて実施する。 ④訓練見学や児童デイサービスへの見学を実施した場合に活用する。 ⑤児童に応じたコンサルテーションを受講し、録画した映像での情報共有を年間1回以上行う。 ⑥年間3ケース以上実施する。 			

<p>④児童の関係機関との連携の場で、学校の様子を撮影したものを活用し、アドバイスを受けて共通理解等に生かしたりする。 ⑤児童の普通の授業や生活の様子を録画したものをOT、ST、PTのコンサルテーション時に活用しアドバイスを受ける。 ⑥学部内で各学級の取り組みについてのケース会を行う。</p>					
---	--	--	--	--	--

エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。
-------	---

重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。
---------	---

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	

学部の目標	・ICT機器を活用し、生徒の支援方法の共通理解に取り組む。
-------	-------------------------------

<p>中学部</p>	<p>・学校での学習の様子や教材の活用方法等を記録し、教員間、家庭、寄宿舍、関係機関と支援方法の共通理解に取り組む。</p>	<p>①学習の様子、新しい教材、支援方法の変更点、コンサルテーションの指導助言内容等をタブレット端末に記録する。 ②学部研修やTeamsを活用し、年間10回以上教員間で情報共有を行う。 ③Teamsを活用し、寄宿舍指導員と週1回以上情報共有を行う。 ④生徒の実態に応じて学期に1回以上家庭にタブレット端末を持ち帰り、授業の様子等を見ていただく機会を設ける。 ⑤訓練見学等の際に、学校での支援の様子等を見ていただき、助言を受けたり、訓練の様子を撮影させていただき、教員間で共有したりして、生徒の支援に生かす。</p>				
------------	--	---	--	--	--	--

エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。
-------	---

重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	一人ひとりに応じて日々の学習活動や行事・家庭学習においてICTを活用し学びを深める。				
高等部 普通科	具体的な活動計画 授業・学校行事に見通しが持てるよう、生徒一人ひとりの見え方に応じたICTの活用をする。	一人ひとりに応じてiPadやGspeak等で「修学旅行のしおり」を作成し授業や家庭学習で活用する。(授業での活用5回以上) ・アプリケーションやICT機器を提案し、家庭と相談しながら生徒が活用できるツールや場面を1人一つ以上増やす。(A組) ・技能検定合格に向けて活動の様子を動画撮影し、授業の振り返りに活用すると共に家庭でも成長や課題を共有する。(授業の振り返りに5回以上、活動の様子動画提供を5回以上)(3年)			
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				
重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	生徒1人1人の見え方や特性に応じた学習方法の提案(ICTの活用を含む)をすることで、生徒個々の学習方法の確立を図る。				
高等部 職業学課	生徒一人一人の見え方に応じて、視覚補助具やICT機器を活用し、授業や家庭で学習しやすい環境を整えられるよう支援していく。	学期に1回、または、見え方に変化があったときに、見え方について生徒に聞き取りを行うと同時に教員間でも共有し、状況に応じて授業資料や視覚補助具の変更、ICT機器の調整を行う。			
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				

重点目標(4)	地域社会と連携した取組や、各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、視覚障がい教育への理解・啓発及びその取組発信に努めます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	地域住民や徳島聴覚支援学校と連携し「防災体験活動」を行うことで、両校や地域とのつながりを深めると共に、本校に対する理解の推進を図る。				
渉外・安全課	・地域の福祉避難所としての役割を果たすため、地域住民と聴覚支援学校と共に、避難所開設までの手順や動きについて再確認し、避難者が円滑に利用できるよう共通理解を行う。	・「福祉避難所」について徳島市防災対策課の担当者から講習を受ける。 ・講習をもとに、福祉避難所開設までの手順を記した「避難所開設キット」を用い、実際に福祉避難所設営シミュレーションを行う。幼児児童生徒が校内にいる想定で行う。 ・八万地区の自主防災の方や徳島市防災対策課の担当者との話し合いや情報交換の機会を3回以上持つ。			
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				

重点目標(4)	地域社会と連携した取組や、各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、視覚障がい教育への理解・啓発及びその取組発信に努めます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	・ホームページを活用して、行事等の情報を発信し、広報活動に努めます。				
教務課	・ホームページの充実を図り、広報活動に努める。	・各式典ごと(5回以上)、実施後に実施内容や写真を掲載する。 ・オープンスクールについて、案内及び当日の様子についてホームページに掲載する。			
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				

重点目標(4)	地域社会と連携した取組や、各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、視覚障がい教育への理解・啓発及びその取組発信に努めます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	他校との交流及び共同学習を推進することで視覚障がい教育への理解・啓発に努めます。				
生徒活動課	・徳島聴覚支援学校をはじめ、他校との交流及び共同学習を推進し、ともに学ぶことにより視覚障がい教育への理解・啓発の機会を設ける。	・薬物乱用防止教室や、携帯スマホ安全教室、文化祭などの学校行事等において、聴覚支援学校と年2回以上の共同学習や交流が実施できるよう計画する。また、他校との交流の機会を積極的に設けるよう働きかけ、昨年度より多く実施できるようにする。			
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				
重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	幼児児童生徒の発達段階に応じた人権教育の充実を図る。				
人権教育・育キリア	人権教育年間計画の作成時に、人権教育を通じて行われる資質・能力の3つの側面(①知識的側面②価値的・態度的側面③技能的側面)を周知し、3つの側面をもとに人権教育を実践する。	・3つの側面を評価基準に人権年間計画を作成し、それぞれの学部学科で実践する。全てのクラスおよびHRの計画で評価項目に3つの側面が80%以上で記入されている。			
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				

重点目標(2)	幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画や個別の指導計画を関係機関と共有することで、卒業後につながるキャリア教育を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	幼児児童生徒のライフステージや発達段階、適性に応じたキャリア教育及び進路指導の充実を図る。				
人権・キャリア教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部から高等部の幼児児童生徒の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育全体計画をもとに、それぞれの学部学科で実践する。 ・幼稚部・小学部は、個別ファイルを活用し家庭の協力を得て、個々の発達段階に応じたチャレンジウィークを実施する。80%以上の実施率を得る。 ・中学部は、進路希望調査の実施と併せて、職場体験や見学を行う。 ・普通科は、就業体験や学習活動の振り返り、まとめを行い、就業体験報告会の実施、キャリアパスポートの作成をする。 ・職業学科は、進路希望調査の実施と併せて、進路講演会を行う。 				
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				
重点目標(3)	県内唯一の視覚障がい領域を対象とした特別支援学校として、学校全体で教育相談に対応するとともに、県内の視覚障がいのある幼児児童生徒や学校・教職員に対する持続可能なセンター的機能の取組を充実します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
課の目標	本校のセンター的機能についての理解を促進するとともに、学校全体で教育相談に対応し、相談体制を充実します。				
サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の園や学校等に対し、本校のセンター的機能についての啓発活動を行う。 ・センター的機能についての啓発チラシを改定し、地域の園や学校に送付する。 ・学校ホームページのセンター的機能についてのページを改定し、啓発チラシや派遣依頼、相談カード等のデータを掲載する。 ・教職員を対象とした研修会での啓発活動を年3回以上実施する。 				

課	・センター的機能に対する本校教職員の意識を高め、教育相談を充実させる。	・センター的機能についての校内研修を年2回以上実施する。 ・サポート課の相談担当者以外が相談に携わるケース(巡回・来校相談における事前事後のケース検討、来校相談への対応等)を全相談件数の80%以上とする。				
---	-------------------------------------	---	--	--	--	--

エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。					
-------	---	--	--	--	--	--

重点目標(4)	地域社会と連携した取組や、各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、視覚障がい教育への理解・啓発及びその取組発信に努めます。					
---------	---	--	--	--	--	--

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		

課の目標	校外での作品展をとおして、視覚障がい教育における取組を発信します。					
------	-----------------------------------	--	--	--	--	--

サポート課	・幼児児童生徒の作品展を実施し、普通の保育・教育の様子や学校としての取組を発信する。	・県庁すだちくんテラスでの作品展を開催する。 ・作品とともに、作品の制作状況を伝えるキャプションや本校の学校案内等を合わせて展示する。				
-------	--	--	--	--	--	--

エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。					
-------	---	--	--	--	--	--

重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。					
---------	---	--	--	--	--	--

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		

学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	「個別最適な学びと協働的な学びの充実をめざして～見直してみよう いつもの授業～」					
-------------------------	--	--	--	--	--	--

研究・情報課	幼児児童生徒の障がい特性と教育的ニーズに応じた分かりやすい授業を実践するために、視覚障がい教育の基礎基本を踏まえた研修の実施や教員の言葉やICT等の教材を工夫した授業を実践することで、専門性の向上を図る。	①新転任者研修を4月に6回実施する。 ②個別の教育支援計画・個別の指導計画の研修を4月に実施する。 ③視覚障がい教育研修を年間13回実施する。 ④研究・公開授業の年間計画を作成し、職朝掲示板で実施日の連絡及び参観を促す。				
--------	--	---	--	--	--	--

エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。					
-------	---	--	--	--	--	--

重点目標(1)	幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生徒指導に取り組みます。 ・ICT教育のステージを高め、家庭や関係機関との連携の場でさらに利活用します。 ・学校と家庭、寄宿舎の協働性を進めることで、学習内容の応用性を高めます。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
寄宿舎の目標	学校、家庭と協働し、舎生一人ひとりの可能性を伸ばす生活支援に取り組みます。				
寄宿舎	・舎生一人ひとりの障がい特性や実態を把握し、教育的ニーズに対応した生活指導・支援の充実を図る。 ・学校のケース会や保護者面談等に、年間15回以上参加し、学校や家庭との連携を深める。 ・寄宿舎における個別の指導目標について、指導員間で年間3回以上検討し、共通理解を図るとともに一貫した支援を行う。 ・徳島県立聴覚支援学校寄宿舎と合同で、学校や他の関係機関と連携した寄宿舎研修を年間2回以上設ける。また、週1回以上、ミニ研修等を行い、寄宿舎指導員の専門性向上に努める。 ・全国の視覚支援学校寄宿舎と、オンラインによる情報交換を年間1回以上行い、視覚支援学校寄宿舎を取り巻く現状と課題を知るとともに他校の実践に学ぶ。 ・行事の立案・実施にあたり、舎生一人ひとりの実態に応じた役割を一人に1つ以上設定し、協調性や、社会性、責任感等を育てる指導・支援を行う。				
エピソード	* 実際の取組の様子が分かる内容(評価とは異なる)を具体的に記入する。記入が難しい場合には、記入しなくても良。				